



二松学舎大学

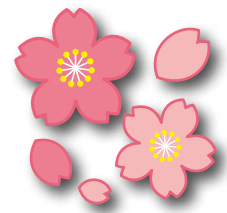
父母会報

平成5年5月10日創刊
令和5年3月31日発行
(第120号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広常吉先生書



卒業を祝す



父母会長
染井 直人

ご卒業を迎えられた皆さん、そしてご家族の皆様、ご卒業まことに御めでとうございます。心からお慶び申し上げます。

さて、卒業される皆さんの四年間の学生生活はいかがでしたでしょうか。二、三年生の二年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、キャンパスに行くことができず日々が続きました。やっとキャンパスでの学生生活を取り戻された四年生の時も、多少の制限がある中のものでした。しかし、この四年間は、ご家族のご理解と大学の先生方をはじめ多くの方々に支えられ、不安を抱きつつも皆さんが新たな価値観の創造を成し遂げた時間であったのではないのでしょうか。これからの道程は皆さんが自身で判断して進んでゆくことが求められる人生です。子細なことで人

生が大きく変わるかもしれません。二十一世紀も五分の一が過ぎ、鉄腕アトムを迎えるには至っておりませんが、その世界に近づきつつも未だアトムを迎えるには至っておりません。近い将来、日本の労働人口の半分がAIやロボットに代替えが可能といわれている中、本当にアトムの時代がやってこようとしています。そんな中、皆さんは二松学舎での学びを振り返り、自信をもって行動してください。

「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」。

この建学の精神のもと、様々な経験を積み、視野を広げられた皆さんは、社会が欲している人材としての力を備えていることでしょう。そしてオンラインワンの人材として活躍されていることと思います。

残念ながら皆さんと先生方、そして友との最後の語らいの場となる卒業パーティーは、本年も断念せざるを得ませんでした。しかし、皆さんは機会があるごとにこの九段の地をお訪ねください。大学も父母会も必ず皆さんを温かくお迎えます。そして、在籍する後輩に進むべき道を示していただきたいと思います。

末筆ながら、父母会事業にご理解、ご協力をいただきました会員の皆様、併せて学生の公私にわたり親身なご指導をいただきました大学教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

日々是新、モラルをもつて行動を

学校法人二松学舎 理事長 水戸英則



も心よりお慶び申し上げます。

社会はコロナとの共存の方向で進んできております。大学も対面授業となり、従来の学校生活が戻ってきています。コロナ禍では、皆様への生活支援金の支給や奨学金

皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。卒業生のご家族や関係者の皆様に

制度の拡充、ハイブリッド授業の継続等最大限の努力を払って参りました。こうした中においてもなお、満足のいく学生生活を送って頂くことが出来なかつたのではないかと、遺憾に思っている次第です。

こうした制約の中で、皆さんが先生方の指導の下、強い意志と忍耐力をもつて四年間学業を継続されたことに、改めて深い敬意を示すとともに、この厳しい環境の中で得られた経験値を今後の人生に活かしていくよう切望しております。

二松学者大学の門を出られる皆さんへ

学長 江藤茂博



二松学舎大学の門を出られる皆さん、ご卒業おめでとうございます。

す。また、これまでご子息ご息女のご成長を見守られてこられた保護者の皆様、おめでとうございます。ここまで彼ら彼女らも立派に成長しました。これからは、しっかりと自分

の生きる道を歩んで行くことでしよう。

パンデミックのなかで、世界が相互に結びついていること、私たちがお互い協力していかなければならぬ社会環境であることを、強く差し向けられた日々でした。そして、キャンパス生活というものが極端に制限された学生生活を余儀なくされた皆さんは、それでもさまざま未知の文化を受け継いでくれました。君た

さて、時代はロシアのウクライナ侵攻による主要国の対立や世界的なインフレの蔓延、デジタル社会への移行、カーボンニュートラル、気候変動対策やSDGs達成など、価値観や世界観が大きく変化し、複雑化・多様化しつつあります。

このような中、新しい時代を切り開いていくのは間違いなく皆さんなのです。皆さんがこれから歩む道は、まさにご自身の開拓と自立への道といえますが、皆さんに参考にしていただきたい大切なことを、二点申し上げます。

一点目は、仕事や研究を行うにあたり、変化を受け入れ、日々新たな気持ちで取り組んでいくということです。毎日を「日々是新」「日々是新進」という気持ちで臨む

ことが、大変革期の中での社会人の生き方ではないでしょうか。

二点目は、常にモラル、道徳心をもって事柄を判断し、行動してほしいということです。今世界では、地球温暖化や自然破壊による異常気象など各地で被害が拡大しています。皆さんの積極的な社会貢献への参加が、諸問題を解決し、持続可能な社会へと世界を導くこととなります。物事に対しモラルを持つて行動し、かつ誠意と思いやりをもって社会生活を送って頂きたいと思っております。

今後皆さんが、日本や世界でより良い社会を実現するために大いに活躍することを祈念します。皆さん、頑張つてチャレンジをしてください。

ちのこの経験や思いが、今後の社会をより良くするために大きく寄与することでしょう。また、そうであつてもらいたと思います。つまり、この経験や思いを基に、よりよい社会を創る世代的な使命を持つ者たちとして、活躍してもらいたと思いま

す。君たちに続く二松学舎大学で学ぶものたちも、私もはしっかりと漢学塾由来の教育し、知的で倫理観のある有為の人材に育てていきたいと思ひます。今後の社会生活のなかで、卒業する君たちには、大いに社会で活躍してもらおうとともに、二松学舎大学の先輩や後輩とどこかで出

会い、失われたキャンパス生活を違つたかたちで手に入れてもらいたいと思ひます。卒業生や在学生の数は決して多いわけはありませんが、二松学舎で学んだ仲間たちは、卒業しても共に歩み、さまざまに活躍しています。また、皆さんに続くために、在学生も日々しっかりと学んでいます。卒業を迎えられた皆さんは、これから卒業生として、二松学舎大学を応援してください。なによりも君たちに、これから素晴らしい人生が切り開かれていくことを、私は疑ひません。

卒業生に贈る

文学部長

瀧田 浩



これまで何度か文学部長として、卒業生や入学生たちの前であいさつをしてきた。目の前にいるのが文学や言語に関心を持つ者たちなので、「多様性に関わられた社会では、他者とのコミュニケーションが不可欠だから、大学で〈言葉〉について

学んだこと(これから学ぶこと)をぜひ生かしてほしい」などと、〈言葉〉の基本的な側面について話すことが多い。そして、いつも「あ、あれも付け加えたいな」と思いながら、時間がなくなり、あきらめる。今回はいつも話さないままで終わってしまうことを書こうと思う。それは〈言葉〉の負の面や毒の面である。現代社会において傷つけられる経

験は、肉体的な暴力よりも〈言葉〉の暴力によることの方が多くように思われる。人を癒し、鼓舞する〈言葉〉の数よりも人を傷つける〈言葉〉の数の方が多いのではないか。また、美しい風景に接したり、他者とまなざしや身体を触れ合わせたりする、〈言葉〉にできない経験の中にこそ良き生の本質が存在するようにも思える。〈言葉〉は理屈や概念などと結びつきやすいから、無垢な経験を求めるならば〈言葉〉は邪魔者かもしれない。〈言葉〉には力があるが、その力が人を傷つけたり、良き生を不純にしたりすることもあるのだ。



卒業生に送る言葉

国際政治経済学部長

佐藤 晋



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。新生活が始まり、慌ただしい日々を過ごされているかと思えます。この場では、皆様が今後社会に出て活躍される準備として「運動」の重要性をお話ししたいと思います。以前から運動、特にジ

ョギング、サイクリング、水泳といった有酸素運動が、肥満・生活習慣病の予防や循環器系の強化など身体機能改善への影響のみならず、記憶力の改善といった脳の機能にも良い影響があることは知られています。さらに近年にはジョン・レイテイほか『脳を鍛えるには運動しかない』やアンデシュ・ハンソン『運動脳』などで、有酸素運動が脳自体の発達をもたらすこと、鬱病・不安神

経症の予防や改善からストレス解消といったメンタル面にまで良い効果があることが知られるようになってきました。しかし、こうした啓蒙活動にもかかわらず、運動を習慣化できている人はそんなに増えてないようです。それは、そうした書物で要請されている運動強度や運動量が運動していない人から見ると相当に高いレベルなこともありませんが、やはり運動の効果を感じてきていないことが大きいと思います。つまり、とりあえず運動してみても、その効果が持久力の向上などに現れたら、それを評価してさらなる運動に向けたモチベーション

国文学科・中国文学科・都市文化デザイン学科・教職課程の先生方から
餞の言葉を頂きました。

自分を信じて前進してください。

仙石 知子

たまには近況報告でも送ってください。
さ。僕も必ず返事を書きます。

五井 信

ハズか来るの前に

周りをよく見ておこう

森野 崇

積善余慶

活動を心から応援しています。

原由未恵

新たな一歩を祝福します。

どうぞお元気で。

改田 明子

「それはもはや別の物語り、

新しい別の物語りでなければ

ならない。」(大西巨久「神聖喜劇」)

山口直孝

みなさんには

未来しかありません

未来へ

塩沢一平

學而時習之

寺内 進

『菜根譚』を讀んで下さい。

小山 聡子

なかなかしんどいせう中ですが、

懸命に、ゆるゆると、

生き延びましょう。

荒井 裕樹

考える。やってみる。

小井 五井 敏

迷ったら怖い方へ！

いつも応援しています

塩田 今日子

明日にのばせることを今日するな

(藤子不二雄)

伊藤 晋太郎

コロナ禍が終息し、心置き

無く皆様と御目に掛かれる

日を楽しみにしています。

五月女 肇 志

ふみ出せば、その一歩が通となる

その一歩が通である(清沢勉夫、アントニオ猪木)

戸内 俊分

文学部・教職課程

Carpe diem
その日その時を大切に

野村 啓介

好きこそ

ものの上手なれ

神楽半也

命ある限りは生きよ！

壮絶な死と同様に

生も壮絶

島田泰子

(おもしろい)

文章法は魂の能力だ。
(ウレリック「文学論」堀口大学訳) 瀧田浩

学を絶てば憂い無し

(老子)

長島弘明

初心忘るべからず

中所宜夫

自分らしく生きよう!!

増田裕美子

人よく道を弘む。道、人を
弘むるにあらず。
町泉弄郎

卒業しても話したいまでなさい。
センター皆でお楽しみませう。
岡田哲也

すべて成熟は早すぎるよりも
遅すぎる方がよい。——岡潔
あせらずにでも前を向いて。

和久希

桜梅桃李

人無志、非人也。

志は高く持とう

堀野正人

牧角悦子

中心実に、誠実に、
愛を持って懸命に!!

麻生将

どんな時も

笑顔全開でいこう!

大藏教義

元気がないときは Mbah Surip の「Tak Gendong」という
曲を聴いてみてください。 林 英一

国際政治経済学部 国際政治経済学科・国際経営学科の先生方から 饒の言葉を頂きました。

「ご卒業おめでとうございませう
ご健康といっそうの活躍を祈ります」

高野和基

日々の何気ない営みで丁寧に

押野洋

ご卒業

おめでとうございませう

岩田幸司

幸せな人生をー

甲垣陽子

御卒業おめでとうございませう

又変り世の中でも
楽しく、楽しく
合大 強

御卒業おめでとうございませう

小久保 似哉

Many congratulations on your graduation and best wishes for your new adventure!
Nussakh Nishikawa-Van Ester

御卒業 おめでとうございませう
西川 ジェンエステル 雅子

御卒業おめでとうございませう。
皆様のこれからへの御活躍を
心よりお祈りしております。

関沢 修子

御卒業おめでとうございませう

菊地 宏樹

御卒業おめでとうございませう
みなさんの新しい人生の門出を
心からお慶び申し上げます

金子 智香

私も本学を卒業します。
次の人生の節目を目指して頑張る
くたまり。

河原田 有一

御卒業おめでとうございませう

夢中にひるもろを見つけれ
人生を楽しんで下さい

手賀 裕輝

やまなひ雨は

はい

だから...

白石 まりも

「ご卒業おめでとうございませう」

山 邊 達

「ご卒業おめでとうございませう
皆様の活躍を心より祈り
しております。がんばってください」

飯田 幸裕

「ご卒業おめでとうございませう
皆様の活躍をお祈りして
おります」

戸辺 玲子

「ご卒業おめでとうございませう
悔いのない人生をお祈りいたします」

本多 峰子

「ご卒業おめでとうございませう
皆様の活躍をお祈りいたします」

中山 政義

「御卒業おめでとうございませう
皆様の御活躍を期待しております」

門傳 藍香

「御卒業おめでとうございませう
皆様の御健康と御活躍を
心よりお祈りして居ります」

小澤 裕紀子



二〇二二年度 卒業式



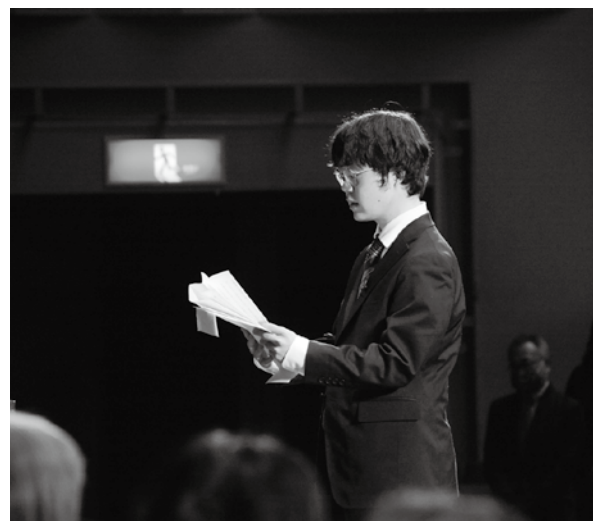
二〇二三年三月十五日(水) 中野サンプラザホールにおいて、二〇二二年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。門出を祝うような晴天に恵まれたこの日、会場には多くの卒業生の笑顔が溢れました。

午前十一時、開式宣言に始まり、国家斉唱(清聴)、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済)の学位記が授与されました。各学科それぞれの成績優秀者には、中州賞として賞状と記念品が授与され、その後教育職員免許状が伝達されました。

続いて江藤茂博学長の告示、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞と式は進行し、厳粛な空気のまま閉式しました。閉式後は会場内の数箇所に分散し、各学科の教員から学位記を受け取り、式典は終了となりました。式典後は、友人たちや先生方と談笑したり記念撮影をしたりと、学生最後の時間を楽しむ様子が見られました。

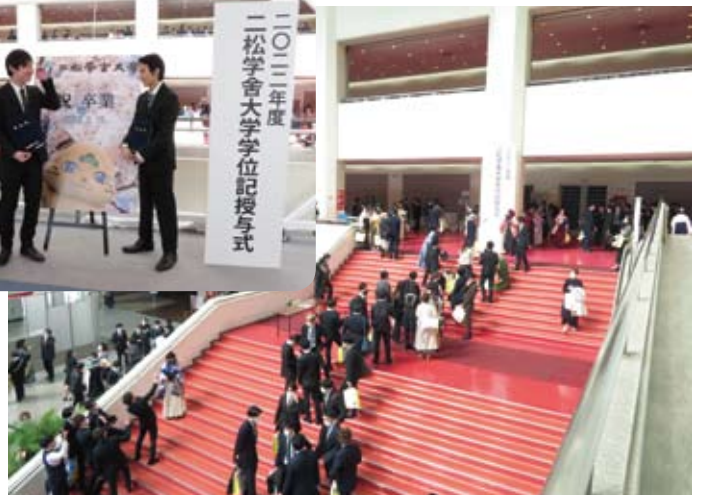
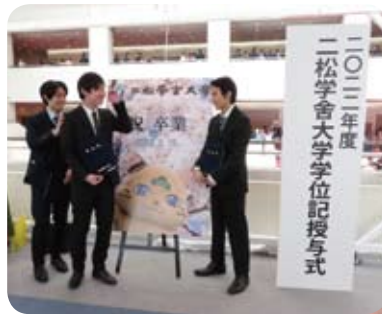
感染症拡大防止の観点から父母会主催の卒業パーティーは今回も中止とし、代替として記念品を贈らせていただきました。

卒業生の皆さんがこの日の喜びを胸に、社会で活躍されることを心よりお祈りしております。





祝卒業



卒業にあたり、新しい人生への希望に満ちた門出に胸ふくらませている学生五名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『手にした日々』



国文学科

小林もも花

柔らかな風が頬を撫で、木々の芽吹きに春を感じる頃、無事に卒業の日を迎えられたことを嬉しく思います。大学生活の四年間は瞬間に過ぎ去っていききましたが、振り返ってみると沢山の経験が凝縮された日々はキラキラと眩しく、私は今、宝石のようなものを手にしていることに気づかされます。

その中でも一際輝いているのが、瀧田ゼミナールで過ごした二年間です。この二年間、ゼミのことを考えなかった日はない位、ゼミでの研究にどっぷりつかっていた日々でした。ここでは毎週、異なる作品を一人一人が分析し、リアクションペーパーにまとめる取り組みをしていたため、

一つの作品が終わったら次の作品と、常に作品のことを考えてきました。電車に乗っている時も、お風呂の時も、夢の中で分析していたこともありました。メモ帳と鉛筆は常に側に置いて、思いついたら書き出すことの繰り返しの日々です。それは、大変で苦しいものではありませんが、結局は「楽しい」が勝っていました。たった数行のために何度も考えて、書き直して、自分が納得いくまで無我夢中で調べて、考え続けて、「これだー」と思ったものが書けた時の、これまでの苦しみを吹き飛ばすような喜び、これが研究の本質のように思います。毎週の課題で経験していたこの感情が、私を走ら

せ続けていました。

また、研究の楽しさだけではなく、ゼミの「仲間」の存在も大きなものでした。授業後に作品や発表について語り合ったり、夜通し電話で考えを言い合ったり、おすすめの本や言葉を共有し合ったりと、常に上を目指して努力している仲間たちと切磋琢磨する日々は、自分を高めてくれました。それでいて、どうしようもない時は話を聴いて、側で支えてくれる心強い味方でもありました。共に走り続けてくれた彼らに対して、感謝の気持ちでいっぱいです。一人一人尊敬できる彼らがゼミの仲間であったことを誇りに思います。

そして何より、これらの日々は全て、熱心に指導して下さった瀧田浩先生の支えによるものです。いつでも、どんな些細なことでも質問に答えて下さり、提出した課題には、本文だけでなく注釈にまで赤線がびつりと引かれて返却される。自分が本気で取り組んだものに対して、同じ位の熱量でご指導いただけれることは、研究をする者としてこれほどの幸福はないように思います。

ゼミナール中心になってしまいましたが、文学を徹底的に学びたいという想いから二松学舎を志望した私は、四年間で上代から近現代まで幅広く授業を受けました。沢山の授業を受けて、研究は狭いものでありな

がら、実は大きく繋がっているものでもあるということに気づくことができ、卒業論文などでは分野を超えて多くの先生方に助けていただきました。私は、瀧田先生をはじめとする多くの先生方の熱意溢れるご指導のおかげで、四年間充実した学生生活を送ることができました。この場を借りて、感謝申し上げます。

振り返ると、学びの楽しさを追求し続けた四年間でした。しかし、こうして学びに走り続けられたのは周囲の支えがあったからです。繰り返しになりますが、自身の熱意に対して真剣に応えて下さった先生方、共に高め合った仲間たち、側で支えてくれた友人たち、学びに集中できる環境を作ってくれた家族、大学生活をサポートして下さった大学関係職員の方々、四年間関わって下さった全ての方に心より感謝申し上げます。

私はこれから大学院に進学し、研究を深めていきますが、そこで待っているのは楽しいことだけではないでしょう。しかし、大学での四年間はきつと私の支えになってくれるはず。手にした宝石のような日々をもとに、それを更に、磨き輝かせるため、これからの日々を大切に、全力で過ごしていきたいと思えます。

『猫みたいな人』



中国文学科

大貫龍之介

これは、私の大学生活の中で最も輝いていた時、——二〇二二年十月から二〇二三年三月まで——の話である。

二〇二二年十月、私はとある一人の女性に出会った。彼女とは千代田区内のボランティア先で出会った。私は当時、それまで所属していたボランティアサークルが有名無実化したところだった。それまで居場所であったボランティアサークルを失い、漠然とした失意のうちにいた。彼女に出会ったとき、私の所属していたボランティアサークルがそのような状態にあったのは、もしかしたら神様の思し召しというものかもしれない。話によると、彼女は一年生でありながら、ボランティアサークルを立ち上げ、活動しているという。私

は彼女に出会ったとき、ただただ彼女を守りたいと思った。彼女を支えたいと思った。今振り返って思えば、それは一目惚れであった。

私は迷わず彼女の立ち上げたボランティアサークルに所属した。ボランティアサークルの先輩として彼女を支えたい。それが理由であった。彼女は私がかつて出会った女性の誰よりも気ままで、誰よりも自由で、誰よりも魅力的で、まるで、猫のような人であった。私たちは次第にサークル以外の場所で会うようになっていった。彼女の人となりを知るたびに、私は彼女を支えたいという気持ちに変化があることに気が付いた。つまり、それまでは、ボランティアサークルの先輩としてという願望であったのが、次第に、人とし

て、彼女の支えになりたい。そう強く願うようになった。彼女と出会ってから私の人生は一変した。それまでモノクロだった世界に色がついた。それまで平坦であった私の人生が、劇的なものとなったのである。

彼女と出会ったのは、私が教育実習を終え、卒業論文執筆に本格的に取り掛かり始めた頃であった。設定したテーマの難しさゆえ難儀していた私であったが、彼女は私の卒論の内容を聞くと、とても興味深そうに反応してくれた。その反応がうれしかった。彼女は私の原動力であった。私たちは学年の垣根を超え、互いに学問の話をした。彼女は聡明な人であった。気まぐれで様々な姿を見せてくれる猫のように、彼女もまた、様々な一面があった。彼女と一緒にいると、見慣れた大学構内の風景も全く違って見えた。大学までの二時間半の道のりが苦ではなくなった。私と彼女とはほとんど毎日をもとに過ごし、たくさんの思い出を紡いだ。

そんな中で、クリスマスの時期が到来した。私と彼女とで、ジェルキヤンドル制作のボランティアの代表をすることになった。ジェルキヤンドルの材料を一緒に買う中で、私は

彼女が実に細かなところまで気配りができるのだと感じた。より一層、彼女に惹かれていった。

誰よりも気ままで、誰よりも自由で、誰よりも魅力的。彼女との毎日 はまるでドラマのようであった。僕の平凡な人生に、彼女という脚本家がやってきて、物語をつけた。彼女の書く脚本は本当に面白かった。彼女の書く脚本は、彼女にしか書けない、素敵な脚本であった。

今でも時々不思議に思う。大学の四年生も終わりになってこのような生活が僕を待ち受けていようとは思像だにしなかった。人生は何があるかわからない。わざわざ言われなくても、そんなことわかっていた。しかし、今ならその意味がより強くなる。人生は何があるかわからない。だから、私は、彼女と共にいられる今を、大切に生きようと思う。人にはいつか別れが来る。しかし、それがいつかはわからない。人生は何があるかわからないのだから。私の人生を変えてくれた「猫」に最大限の感謝を述べて、大学生活の振り返りとした。

『一年次の自分へ』



都市文化デザイン学科

河野 姫 奈

卒業にあたり、ご指導頂いた皆様、お世話になりました皆様に感謝申し上げます。私は入学の折にも、ご縁あつてこの父母会報の「大学に入学して」に寄稿させていただき、再び文章を掲載していただく運びとなり、大変光栄に思います。せっかくの機会ですので、入学時の自分に宛てた手紙のように綴らせて頂きたいと思えます。

設立三年目の都市文化デザイン学科という新しい学科を魅力に感じ、入学を決めたあなたへ。大学の勉強についてはとにかく良い成績を取ろうと、決意を固めたかと思えます。テストはもちろん、レポートでは読み手である先生方の期待を超えることを目標に全力で取り組み続けます

が、あなたはこれを主軸にしなから、自分の興味の赴くままに次々と新しいことに挑戦していきます。観光が好きあなたには都市メディア専攻を選び、観光社会学をメインに学ぶこととなりますが、独学で国内旅行業務取扱管理者という国家資格も取得しますし、観光に関わる内容の国際政治経済学部科目も受講します。長期休みには、ふらっと一人旅にも出かけますよ。こうして得た様々な知識や経験が、プレゼンテーションやレポートに提示する具体例にする助けとなります。レポートを書くのは楽しい、という気持ちを知り、先生方の期待も、きっと超え続けていることでしょう。卒業論文の執筆にはそこまで乗り気ではなかつ

たと思いますが、大学での学びの中で好きな概念にも出会い、立派に書き上げることができましたよ。

あなたがこの四年間で成長したこと、それは人を頼れるようになったことです。何事も一人でそれなりにこなすことができ、頼られることの方が多くあなたは、人を頼る必要性すらあまり感じていませんね。でも、アルバイトを始めて実社会に出て、自分一人ではこなせないことも多くあることを知り、自然と人に頼れるようになります。そして経験を積み、頼られる立場になっても、こちらから後輩を頼ることもあります。それが相手への信頼の証になると学んだのです。ちよつと抜けている先輩の方が人間味があつて良いのでしょうか？なんてセリフが言えるようになりました。人のことは頼つていいんです。結局、あなたはやっぱり同じくらい頼られますから。

あなたがこの四年間で変わらなかつたこと、それはとてもお喋りなことです。同じゼミナールの友達との雑談が盛り上がるのはもちろん、授業中のグループワークも楽しんで喋っています。アルバイトも接客業、しかもお客様と仲良くなるうというタイプの人情味あるお店ですから、

よく世間話をしています。オープンキャンパスの学生アルバイトにも参加して、キャンパスツアーのガイドとして大勢の人の前でも喋っています。そんなあなたは大学を卒業したら、大阪で接客業をすることになります。レポートの具体例に用い続けた大好きな地を職場にします。接客業は意外かもしれませんが、楽しい仲間や常連さんに囲まれたアルバイトのおかげで接客が好きになったんですよ。

「周りの仲間は、私にどんな人間的評価を下すだろうか。」入学時の稿で、あなたはそんな問いかけを残して筆を置きました。この問いかけは四年間、私の心のどこかにあり続けたのだと思います。私は、いつも自分のために行動していました。でも、いろいろな場面で「河野さんがいてよかった」と言われるようになりました。きっと無意識のうちに、人のためにもなる行動ができるようになったのでしょうか。とても素敵だと思いますか？

四年前の私へ。自分のために生きてみてください。今の私は幸せですよ。

『文字と向き合う』



国際政治経済学科

斉藤 陸

「二〇四一四七」。この数字が一体何を意味するか、この文章を読む貴方は分かりますか。この数字は大学に入学してから今日に至るまで、すなわち四年間の大学生活の中で私がWordに打ち込んだ文字数の合計をあらわしたものです。四年間で新書にして二冊分、卒業論文にして十本分という気が遠くなるほどの文字を打ち込んだ今、私は本学の入学案内冊子などに書かれていた「たいせつなのは、国語力。」という言葉を出しています。

論理的な思考を巡らせてそれを言語化するという行為は非常に難易度の高い作業です。ですがそれ以上に、言語化した論理を文章に落とし込んでいき、読み手に分かりやすく伝えるという作業はさらに複雑で高

度な技術が必要とします。大学では常にそのような作業を行うことを求められ、なおかつそれが自身の評価にも直結していました。それゆえに、「二〇四一四七」という数字の一文一文字には「この表現の方が伝わりやすい」とあるとか、「この表現の方が説得力のある文章になる」といった私の試行錯誤の跡が刻まれているのです。

さて、文字数を集計しつつ過去のレポートの内容にも改めて目を通してみましたが、四年間で実に多様なテーマを扱ってきたのだと思い知りました。「北東アジアにおける核兵器をめぐる動向」という安全保障分野のレポートもあれば、「親鸞の教えと東国で発生した異義」という浄土真宗を扱ったレポートまで存在す

る。自身の専攻分野だけでなく、他の専攻分野や他学部の講義も受講できるという制度は本学が誇る素晴らしい特色です。こうした制度を活用して身に着けた幅広い学問分野の知見は、これからの私の人生に新たな視点を提供してくれるでしょう。

私の大学生活は文字と向き合った四年間でした。幅広い学問分野のレポートを書き上げ、いくつもの専門書を読み漁り、日々講義の内容をノートに書きこむ。そうした生活を送る中で身に着けた専門的な知見や「国語力」は、私が二松学舎大学での学びで手に入れた大切な財産です。そして四年間の大学生活で得た全ての財産を手に、私は新たな生活、新たな舞台へと歩みを進めます。

最後に、二松学舎大学を卒業するにあたって名誉ある中洲賞を頂けたことを光栄に思います。こうして私が中洲賞を頂けたのは様々な人の支えがあつてこそです。まず、丁寧な指導をしてくださった諸先生方に深く感謝いたします。特に、私が所属するゼミナールの指導教員であった合六強准教授には国際政治や安全保障に関する新たな視点を数多く示していただきました。合六先生の下で

国際政治を学べたことを私は終生誇りに思います。次に、ゼミナールの同窓生たち。議論の中で私一人では考えつかなかった論理を幾度となく提示し、合六先生とともに刺激的なゼミナールを作り上げてくれました。本当にありがとう。他にも、私の大学生活を陰ながら支えてくださった大学関係者の皆様や父母会の関係者様には感謝の念が堪えません。そして何より、いつも近くで私を支え、時に励ましてくれた家族に心から感謝します。私がNSC奨学生に採用された際、私以上に喜んでくれた父の降。父亡き後、仕事から家事まで必死にこなしてくれた母の真理。私に近い立ち位置で話を聞き、常に私を気遣ってくれた姉のゆい。そんな彼らの支えがあつたからこそ、今の私があります。本寄稿文をかげがえのない私の家族たちに捧げます。



『人』



国際経営学科

中村 康 輔

二松学舎大学に入学しあつという間に四年が経ち卒業を迎えました。思い返せば長いですが、一言で表すと「人」に恵まれていた学生生活であつたと感じています。

このような場で話すことではないのかもしれませんが、私は受験に失敗し、いわゆる滑り止めという形でこの大学に入学しました。もちろん、今ではこの大学で良かったと思つていますが、当時は編入すら考えていたことを覚えています。そんな私に転機が訪れたのは入学して半年ほどが経ち後期のプレップ・ゼミが始まった頃です。私の担当は実務家教員である小具龍史先生でした。小具先生の授業は実務家であることからグループディスカッションや企業のケースワークなど非常にビジネス

シーンで活かせる内容が多く、私の将来を考えた時、この先生の授業を受け続ければ必ず力になると感じました。二年次からは正式に先生のゼミの一員となり、実際の企業を相手に事業提案を行うという貴重な経験をし、とても鍛えられたと感じています。授業以外でも先生にはインターンを紹介していただいたり、自身が志望する業界が先生と同じだったことから相談にも乗っていただき、大学生活において欠かせない存在でありました。本当に感謝しています。

になってきました。小久保先生も実務家教員ということで、ケースワークやディスカッションを多く行いましたが、小具先生と大きく違う部分があります。それは数字に基づく分析です。小久保先生からは統計学や分析ツールから、その数字は一体何を意味するのか、というビジネススマンになる上で必ず必要となるスキルを叩き込んでいただき、実際に医療ビッグデータ領域に関するインターンでは実際のツールを用いて企業に事業提案を行いました。他ゼミ生の自分に対しても四年間良くしていただき本当に感謝しています。

さて、ここまで先生方のことについてお話ししましたが、私にとつて一番重要だったのは「友人」だと思つています。入学して間もない頃、アイダンスで何か聞けるようにとりあえず連絡先を交換した人は同じゼミに入りこの四年間一度も離れることのない大切な友人となり、はたまたある日単位を落としそうだから一緒に仲間に入れてくれと言ってきた素直で優しい人は今でも仲の良い友人でこの二人がいなければ私の大学生活はつまらなく灰色のようなものになつていたと思います。いくら大学の環境が良くてもそこに行きたいと思わなければ意味がありません。私を大学に行きたいと思わせてくれたのはいつもこの二人でした。嬉しいことに他にも大切な友人が沢山できました。こんな自分と仲良くしてくれて本当に感謝しています。ありがとう。

このように私は人に恵まれ、色んな人に助けられ四年間過ごしてきました。「置かれた場所で咲きなさい」という言葉がありますが、不本意ながらも置かれたこの環境の中で、自分なりに考え動き、非常に身になる環境へと変えられたと思つています。今はもう顔を上げ卒業できません。

最後に、決して忘れてはならない存在がもう一つあります。それは「両親」です。大学に行けばいつもの友達がいる、良い先生がいる。しかし学費を払い続けてくれた、毎朝いつてらつしゃいと送り出してくれたのは両親です。両親がいなければ私の今の環境はありません。いつかこの大学で得たものを活かし社会で活躍したときは必ず、いつも味方でいてくれることへの大きな感謝とお礼をしたいと思えます。いつも本当にありがとう。これからも人に恵まれるような人生でありますように。

●「答え」と「結末」を急ぐ

先日、窓口に来た学生と雑談していたところ、ある動画サイトの話になりました。その会話の中で、映画を倍速で観ているとの発言があつてびっくりしました。

筆者の認識では、映画はストーリーや脚本もさることながら、場面構成や細かい映像技術、音楽などを含めた総合芸術であり、人によって観点は異なつても「倍速」で鑑賞するという発想はなかつたからです。

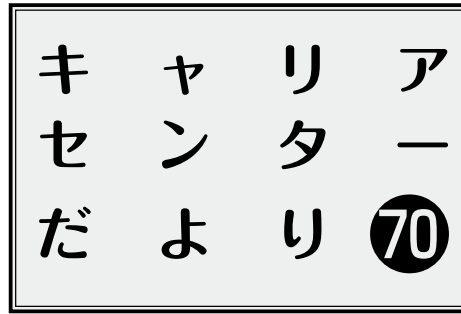
しかし件の学生は「映画館で観れば約二時間拘束されてしまう」「話題作ならば内容と結末さえ知れば友人との会話に事足りる」との理由から、映画は全て「倍速」で一か月に十数本の映画を鑑賞するそうです。

また別の日に他の学生からは、キャリアセンターが配信した各種講座は全て倍速で視聴し、種類によっては「まとめ」だけ確認しているとの話を聞きました。どうして?と問うと、驚いた顔をして「必要な情報のみを抽出しなければ時間ももったいない」とのこと

で、忙しいの?と問うと、「忙しいわけではないけれど、回答があるとわかつているならば、回答だけ確認できれば合理的だと思う」とのことでした。

所謂「Z世代」「情報端末一体型世代」の考え方、と一括りにしてしまいがちで、我々社会人からすると理解に苦しむ思考かと思えます。

しかしながら、多くの若者がこうし



た「答え」や「結末」を急ぎ、それまでの経緯やプロセスを軽視するのは、彼らなりの防衛本能ではないか、とも思われます。

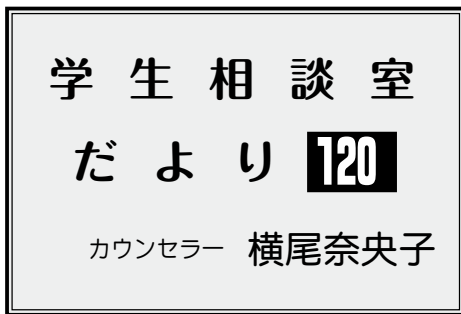
巷間では、「VUCA時代」と言われています。「変動性」の「V」、「不確実性」の「U」、「複雑性」の「C」、「曖昧性」の「A」、それぞれの頭文字をとって「VUCA (ブーカ)」と呼ばれています。先行き不透明で予測困難な時代という意味です。入手可能な情報があまりにも多く、その真偽も定かでない、有効性も不確かな状況下では、「答え」や「結末」を急ぎ、それに対応するための「時間」という「資源」が必要になるのは、当然のことなのかもしれません。

しかし、大学を卒業した若者が出る現代社会は、このような不確かで混沌とした「VUCA時代」を是とし、ここから何か新たな価値を生み出し、希望ある未来に繋げようとしています。これまで「無かったモノ」を生み出そうとする社会、と言い換えてもいいかもしれません。したがって、「解答」が常に無い世界で「答え」を出していく作業を続けることが求められます。

学生時代は「答え」先行でも良いかもしませんが、「答えのない世界」で「答え」を出すためには、一定以上の思考と醸成する時間が必要になります。キャリアセンターでは、こうしたことに着目した講座やセミナーも多数開催しています。

「親には言えない・言わない」ことが増えていくのは自然なことです。他方で、親御さんにとっては心配に思うこともあると思います。交友関係・外出時の行き先・生活状況など知りたいうちのお気持ちももつともです。尋ねることが悪いわけではなく、管理をしすぎてしまうと子どもが自立を妨げたり、子どもとの信頼関係が損ねられたりすることがあります。

ご卒業・ご進級おめでとうございます。春はお子さんの成長や変化を実感することが多い時期です。うれしい変化や成長もあれば、そうでない変化もあるのではないのでしょうか。小さい頃はなんでも話してくれたお子さんが大學生にもなると「なにも話してくれない」といったことも耳にします。子どもが成長していく過程で



振・心身の不調・大きな金銭問題などです。成績が急に著しく低下した場合は、なにか心身の不調やトラブルを抱えているかもしれません。見るからに具合が悪いときや食事をとれなくなっているときなども同様です。多少の失敗の範疇を超えた、高額な借金や浪費には詐欺被害や病気などが潜んでいるかもしれません。

カウンセラー 横尾奈央子

自分で必要な機関や人に相談できていくというお子さんはご家族の関与は必須ではありませんが、そうでない場合はご家族の関与により問題が解決に近づくことがあります。不調やトラブルを抱えているようなのお子さんから話してくれない場合には、ご家族から「具合が悪そうなので心配している」「困ったことがあれば相談してほしい」と伝えるのも一案です。それでもお子さんが話せないときは、まずは親御さんが相談できる場所に相談してみてください。学生相談室は、親御さんからの相談もお待ちしています。

「親には言えない・言わない」ことが増えていくのは自然なことです。他方で、親御さんにとっては心配に思うこともあると思います。交友関係・外出時の行き先・生活状況など知りたいうちのお気持ちももつともです。尋ねることが悪いわけではなく、管理をしすぎてしまうと子どもが自立を妨げたり、子どもとの信頼関係が損ねられたりすることがあります。

反対に、カウンセラーとして「親御さんに把握しておいてもらう」とありがたいと思うこともあります。それは「ご家族の協力によって解決しうる困りごとがある場合」です。具体的には成績不

2023年度二松学舎大学日程表

年	月	日	月	日	日	程	
2023年	3	27	~	4	8	ガイダンス期間	
	4	4				入学式	
	4	10				春学期授業開始	
	5	1	~	5	2	全学休講	
	5	27				父母会定期総会	
	6	17	~	6	18	POP (学園祭)	
	6	27				春学期授業料納入期日	
	7	17	~	8	5	試験期間 (定期試験期間を含み18日間)	
	7	17				(海の日) : 授業実施	
	7	29				授業期間終了	
	8	6	~	9	10	夏期休業期間 (36日間)	
	8	17	~	8	18	追試験 (18日は予備日)	
	9	11				秋学期授業開始	
9	18		9	23	(敬老の日)(秋分の日) : 授業実施		
9	30				春学期学位記授与式		
2023年	10	10				創立記念日 : 全学休講	
	11	1		11	4	学園祭準備・片付日 (休講)	
	11	2	~	11	3	学園祭	
	11	23				(勤労感謝の日) : 授業実施	
	11	27				秋学期授業料納入期日	
	12/18・21~23 及び1/9~27					試験期間 (定期試験期間を含み18日間)	
	12	25				全学休講	
	12	26	~	1	8	冬期休業期間	
	2024年	1	9				授業再開
		1	13	~	1	14	大学入学共通テスト (11日・12日・13日休講)
1		20				授業期間終了	
2		13	~	2	14	追試験 (14日は予備日)	
3		上旬				卒業生発表	
3		上旬				進級生発表	
3		20				学位記授与式 (卒業式)	

2022年度 学生褒賞

区分	氏名	主催	大会名	受賞内容
個人	小林 俊介	全日本書道教育協会	第106回書教展	中国大使館賞
	藤井 裕大	国立青少年教育振興機構	第12回全国青少年書初め大会	学生委員長
		一般社団法人 日本書道院展	第71回日本書道院展	第二科 佳作
		大東文化大学	第63回全国書道展	推薦賞
		大正大学	第69回大正大学全国書道展	特別優秀賞
		全日本書道教育協会	第106回書教展	全日本書道連盟賞
		日本書芸院	第27全日本高校・大学生書道展	書道展賞
	三浦 康生	読売新聞社	第38回読売書法展	入選
	田賀 豪	諸橋轍次記念館	第14回諸橋轍次博士記念漢詩大会	学生の部 優秀賞
	猪野 修都	音・音楽フォーラム松戸	第5回記念総の国童謡 作詞・作曲コンクール2022	最優秀賞 (一般の部)
	小川 春希	全国書画展覧会運営委員会	第44回ふれあい書道展	特選
		大東文化大学	第63回全国書道展	銀賞
		二松学舎大学	二松学舎大学145周年記念学芸コンクール	佳作
		読売新聞社	第38回読売書法展	入選
	鈴木 健太	全日本書道教育協会	第106回書教展	審査委員長賞
団体	書道部	全日本書道教育協会	第106回書教展	団体奨励賞

課外活動団体助成

	団体名	内容
1	書道部	令和4年度二松学舎大学書道部学外展 会場借用

お知らせ

二〇二三年度
父母会定期総会について

左記の日程により、二〇二三年度
二松学舎大学父母会定期総会を開催
いたします。

日時・二〇二三年五月二十七日(土)

場所・二松学舎大学九段キャンパス

一号館

内容・二〇二二年度事業報告並びに

決算

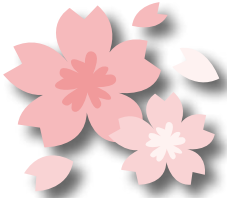
・二〇二三年度事業計画並びに

予算 等

新二年次生、新四年次生の会員の
皆様には、二〇二三年度定期総会
のご案内と出欠票(委任状)をこの父
母会報第一二〇号に同封しておりま
すので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同
封の出欠票(委任状)で五月八日
(月)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五
月中旬に郵送にてお届けします。



学納金の納付方法及び納付期限の変更について

すでにご案内しております通り、2023年度学納金お支払い方法が口座振替方式(口座からの自動引き落とし)へ変更となります。

銀行口座のご登録は3月より開始しておりますが、まだお済みでない方は、至急ご登録くださいますようお願い申し上げます。

詳細につきましては、本学ホームページ内 > 学生生活 > 学費欄

(https://www.nishogakusha-u.ac.jp/admission/g6_2.html)にてご確認ください。



○納入期限の変更

春学期分： 4月20日 → 6月27日 引き落とし

秋学期分： 10月20日 → 11月27日 引き落とし

※引き落とし日が金融機関休業日の場合は翌営業日となります。

★ご注意ください!★

- 引き落とし日が変更となりますが、延分納の申請締切りは従来通り(春学期4月20日、秋学期10月20日)ですので、お間違いのないようご注意ください。

【本件に関する問い合わせ】

学納金振替口座登録につきましては、メールにてご質問を受け付けております。

下記連絡先までお問い合わせください。折り返しご連絡いたします。

二松学舎大学 企画・財務課 振替口座お問い合わせ窓口

E-mail : k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

編集後記

四年生の皆様、ご父母の皆様、
二松学舎大学ご卒業おめでとうござ
います。一年生の冬からコロナ
禍に入り、さぞお辛い日々をおす
ごしになられたことと存じます。
これまでの忍耐が新しい生活のな
かで心をみつめ、己にも人にもや
さしくなれますように、とお祈り
いたします。

役員として活動に参加しながら
印象に残ったことは、十月に論語
の学校でWBCの栗山英樹監督を
お迎えしてお話を伺えたことで
した。

「天は、一人一人に天命を与えて
いる」という箇所が心に響きまし
た。また、三年ぶりに創縁祭で喫
茶室をやらせていただいたことで
す。若いころに戻った様に楽しく
学年ごとに仕事を分担して、チー
ムワークを活かしながら準備に励
みました。学生の皆さんやご来場
されたご父母の方々とも初めてふ
れあえたことは、大きい喜びでし
た。

二〇二三年度は、コロナ禍にお
ける制限が緩和されて、更に充実
した学生生活ができますように、
希望しています。会員の皆様にお
かれましては、この春から、ひき
つづき、ご支援とご協力をどうぞ
よろしくお願いいたします。